



開会の挨拶で登壇する
中野会長代行

本大会 2018 in

京都府亀岡市で平成30年度総会

開催され、約500人

来賓祝辞で登壇した世界連

亀岡が開催され、約500人

世界連邦運動70周年記念

が出席した。

主催者である世

界連邦日本推進協

議会の中野寛成会長代行は、

世界連邦運動の経過と現在の

活動を振り返るとともに、核

兵器禁止条約が国連で採択さ

れたことに触れ、自治体の働

きかけが国の署名につながる

と当協議会をはじめ、関係機

関への連携を呼びかけた。

亀岡市の桂川孝裕市長は開

催市として歓迎の意を表明。

「世界連邦宣言と非核平和宣

言を行った平和都市として関

係機関と連携し平和と非核化

に向け取り組んでいきたい。」

と述べた。

また、中東和平プロジェク

トで来日しているイスラエル・

パレスチナ紛争遺族会の関係

者が、和平の取り組みのスピ

ーチを行った。

会顧問)が「世界の人とともに

に一和の心」をテーマに記

念講演を行った。自らの戦争

体験をもとに、日本人に根付

いていた誠実さ、忍耐力、相

手にゆする心が大切であると

語った。

また、国際連合の限界と世

界連邦実現の難しさを伝える

とともに、草の根の活動の大

切さに触れ、各団体が連携し

世界連邦実現に向けて具体的

な行動を起こす必要があると

訴えた。

また、実行委員会を代

表し挨拶する桂

川亀岡市長

千玄室氏(世界連邦推進日本協議会会長)

裏千家15代・前家元の千玄

室氏(世界連邦推進日本協議会副会長)

が登壇して講演を行った。

この交付金を受けるには、

「世界連邦」を標榜し、この

交付金を受けている旨を表

示していること、他の補助

ことを期待しております。

50万円までの全額を補助

金等を受けていることなど

どが条件で、交付金の額は、

交付対象経費の10分の1以

内で限度額は50万円となっ

ています(申請は、事業実

施年度の前年12月末まで)。

各自治体におきましても、

この交付金制度を活用い

ただき、世界連邦施策の積

極的な推進に取り組まれる

ことを期待しております。

今こそ一致団結して活動を

京都府亀岡市で平成30年度総会



総会で挨拶する山崎会長
に向けた平和都市として開
いた意に触れ、『安
心せずに、今後も注
視していく」と述べ
る」と述べる

にも、当
たる」と述べ
る」と述べた。

トで来日しているイスラエル・
パレスチナ紛争遺族会の関係
者が、和平の取り組みのスピ

ーチを行った。

言を行った平和都市として開
いた意に触
れ、「安
心せずに、今後も注
視していく」と述べた。
トで来日しているイスラエル・
パレスチナ紛争遺族会の関係
者が、和平の取り組みのスピ
ーチを行った。

動70周年記念・亀岡市生涯学習都市宣言30 世界連邦日本大会2018



千玄室氏

中東和平プロジェクト2018 イスラエル・パレスチナ紛争遺族会関係者が来日



世界連邦日本
大会でスピーチするアマルヤ
イファット氏(左端)、アマ
ルヤイファット氏(右端)

大河の一滴 微力な取組でも 決して無力ではない!

8月14～21日の日程で、「中東和平プロジェクト2018」(主催：第34回世界連邦日本大会in亀岡実行委員会)が開催。今回は、子ども達を派遣する窓口となつたイスラエル・パレスチナ紛争遺族会(PCFF)の関係者を招へいする初めての形で実施された。

一行は、過去の開催自治体や関係機関を訪問するなど、自らの体験やPCFFの和平活動等について広くアピールし、熱心に意見・情報交換等を行うとともに、今後のプロジェクトの実施に向けての確認の場ともなつた。

10回の開催で約100人が来日

「中東の和平は世界の平和に通じる」との理念から平成15年に綾部市で始まった中東和平プロジェクト。経費の一部には、全国の自治体職員からの募金を財源とする当協議会の交付金を充当するなど中核事業として支援し、平成28年の高野町まで10回の開催で延べ107人に及ぶ紛争児童を日本に招き交流を

世界連邦日本大会でスピーチするアマルヤイファット氏(左端)、アマ
ルヤイファット氏(右端)

平成25年の京丹後プロジェクトに紛争児童として参加していたアマル氏は、当時のホストファミリーとの再会を果たし、「日本での経験が祖国での活動の力になっている」と強く語った。

また、今回が初来日となるヤイファット氏は「約1週間にわたりパレスチナ人であるアマル氏と行動を共にすることは現地では難しく貴重な体験」とコメント。当プロジェクトの取組を「暗闇の中の光」と喻えた。



綾部市での平和祈願イベントで鐘を打鳴する2人

苦い経験を乗り越え

今回来日したのは、パレスチナ側アマル・アブ・アヤフアット・モハル氏の2人。それぞれ生前・幼少期に紛争により親族を失った経験を持ちながらもPCFFの一員として積極的に和平活動に参画してきた。



外務省では河野太郎・外務大臣(中央)らを表敬

河野外務大臣らと面会

一行は、15日から18日に掛けて、過去の開催自治体(平成15年・22年綾部、平成18年平和イベント等に参加)。20日には東京で、河野太郎・外務大臣、衛藤征士郎・世界連邦日本国会議員会会長を表敬し、

PCFF関係者への激励とプロジェクトについて高い評価を受けた。

厳しい中東情勢の中で

一行は、15日から18日に掛けて、過去の開催自治体(平成15年・22年綾部、平成18年平和イベント等に参加)。20日には東京で、河野太郎・外務大臣、衛藤征士郎・世界連邦日本国会議員会会長を表敬し、

トランプ米大統領のエルサレム首都宣言やイスラエルなど依然として混迷が続く厳しい中東情勢の中で、実現した今回のプロジェクト。

ご協力ありがとうございました

当協議会会长である綾部市・山崎市長はプロジェクトを終え、「微力な取組であるものの決して無力ではない、まさに『大河の一滴』であるとの思いを再認識した。地道ながらも続けていくことで和平の実現に貢献することを祈念する」と述べている。

世界平和・難民救済募金に549万円

「世界平和と難民救済のための自治体職員1人100円募金」は、当協議会の中核事業として昭和61年から毎年実施。平成29年度には165団体から約549万円の寄附をお寄せいただき、国連UNHCR協会・日本ユーフェン協会への寄託、中東和平プロジェクトをはじめとする世界連邦・平和推進事業に充當するための基金造成を行いました。

ご協力いただいた関係職員の皆様に厚く感謝申し上げます。なお、平成30年度は、例年より募集期間を前倒しし、12月から1月までに実施する予定です。各自治体におかれましては、積極的なご協力をお願いします。